

平成 23 年度（第 3 回）高岡市男女平等推進市民委員会

会議録（要旨）

○ 日 時	平成 24 年 2 月 8 日（水）13：30 ～ 15：00
○ 場 所	高岡市役所 3 階庁議室
○ 出席者	・ 委 員 16 人（大石会長、米澤副会長、小松委員、青木委員、北野委員、黒田委員、小間委員、坂田委員、澤委員、高柳委員、長堀委員、瀧木委員、宮田委員、向委員、室谷委員、吉田委員） 欠席・・・下村委員、高野委員、増岡委員、六瀬委員 ・ 高岡市 6 人（新井経営企画部長、澤田男女平等・共同参画課長、太田男女平等推進センター所長、大野副主幹、高井主査、徳市主査） ・ 傍聴者 0 人
内 容	1 開 会 2 挨拶 新井経営企画部長 3 会長挨拶 会 長 ・ 男女平等推進プラン後期事業計画及びDV対策基本計画の最終答申（案）がまとまったので、その内容の説明を受けて、市民委員会として最終的に取りまとめていきたい。 中間報告について、市民意見等を取り入れた計画作成については、2つの部会の委員の皆様には、部会での貴重なご意見・ご提案をいただき、改めて感謝と御礼を申し上げます。 本日は、それぞれの計画を最終的に取りまとめた後、高橋市長へ答申したいと考える。 4 後期事業計画部会報告 ○ 小松部会長 ・ 部会開催経過及び最終答申（案）説明 ● 事務局 — 資料 1、3 により説明 — 5 DV対策基本計画部会報告 ○ 米澤部会長 ・ 部会開催経過及び最終答申（案）説明 ● 事務局 — 資料 2、4 により説明 — 6 質疑・意見交換 ○ 委 員 ・ 後期事業計画 6-(3)参画とまちづくりとの有機的な連携の促進について「今後とも、防災・災害復興を含め、様々な分野で市民や企業、団体、地域そして行政が連携し新たなまちの魅力や価値を一緒に創りあげていく、「共創」の取り組みをすすめていく必要があります。」（資料 3-13 頁）とあるが、今までの「協働」について市民と行政との意識が一致しないまま、

自分は協働事業に参加してきた。「協働」はとても難しいと感じていたが、今回新たに「共創」という言葉が登場した。高岡市総合計画にも「共創」とあったが、経緯と「協働」との違いを説明してほしい。

- ・ この文章の内容はとても理想的で望ましく、実現できれば良いのだが、困難が多いだろう。

●事務局

- ・ 市民の皆様のご意見により、総合計画に「協働」と「共創」とあるので、男女平等・共同参画でも協働事業を進め、「共創」へ繋がればよいと考え、概念にした。

会 長

- ・ 高岡市の様々な取り組みと一体化しながら男女平等・共同参画の推進を進めていくためには、連携が大切である。市の総合計画の中での「共創」の位置づけとは。

●事務局

- ・ 先行して、市の総合計画第二次基本計画の策定をした。これも平成 24 年度から 28 年度の計画である。その中で、新たなまちづくりの概念として『「共創」でのまちづくり』という概念を打ち出している。
- ・ 「協働」と「共創」の違いについてだが、協働の延長線上でもあり、新たなものでもある。「協働」という言葉が持つ「ともに活動する」という形態に着目し、協働の要素を取り込みつつ、「新たな価値を生み出す」、あるいは「新たなシステムをつくりだす」ということを重視して、その成果・目的を求めて活動しようということで「共創」の概念を打ち出した。
- ・ 共創については発展途上であり、5 年間の計画を実施するにあたり、皆様の理解をいただきながら、具体的な取り組みを行っていききたい。
- ・ 市民の方から「市の総合計画に掲げられているので、男女平等・共同参画のプランにも目指すべき目標として掲げてはどうか」との意見をいただいた。

○委 員

- ・ 高岡市DV対策基本計画（仮称）中間報告に対する意見募集結果及び対応（案）№5 の対応案について「相談者の最近の傾向としては、身体的暴力に加えて、精神的暴力も増えてきています。」（資料 2-1 頁）とあるが、この精神的暴力とは、学校・職場でのいじめ・無視等のことを意味するのか。

●事務局

- ・ 学校のいじめとか職場等でのパワハラ・セクハラのことではなく、配偶者等からの暴力の内容のことをいっている。

○委 員

- ・ 後期事業計画部会では、51 件の意見が寄せられたことについて、意見数が少ないと捉えるべきか、多いと捉えるべきかという意見があがった。もっと意見が寄せられれば、よりいっそう良かったと思う。
- ・ 今回は 51 件の意見が寄せられたことを大事に考え審議した。

○委 員

- ・ 高岡市男女平等推進プラン後期事業計画中間報告に対する意見募集結果及び対応（案）の防災分野での女性参画 1 の対応（案）について「現在、防災会議には、男女平等・共同参画施策を所管する経営企画部長が出席している。」（資料 1-1 頁）とあるが、これは高岡市庁内の会議のことか。

●事務局

- ・ 高岡市の会議であるが、庁内だけでなく、いろいろな機関が参加する会議である。
- ・ これまでの防災会議は、災害が起きた場合に実際に関係する機関（市・県・国の関係機関や、民間の電気・ガス会社等）を中心としたメンバーが参加していた。そのため、女性の比率が低くなっている。
- ・ 女性の意見・知恵はとても役立つので、会議を見直す必要があるかと思う。

○委員

- ・ 防災会議での女性の比率は、専門部会だけでなく、防災会議にも女性が加わらないと、女性の意見や知恵が反映されないのでは。

●事務局

- ・ 防災会議では、女性3人/75人中である。女性を増やすよう、担当部局と話をしている。
- ・ 市の職員が委員として参加するのはいかがなものか、という市民からの意見もあり、防災会議全体の在り方については検討が必要であり、現在話し合いをしている。

○委員

- ・ 女性の参画について、いろいろな分野・組織で女性を参画していこうという動きがあるが、自治会において、自治会長等の役職については女性自身の意識が低いのではないかと。女性にもっと意識を持ってほしい。
- ・ 女性自身が積極的にすすんで参画してくれれば、男性はそれを止めはしない。一般的に、女性はまだ参画したからないのでは。もっと啓発していくことが必要では。

●事務局

- ・ 自治会活動での女性の参画については、この5年の課題である。個人個人での男女平等・共同参画という意識は高まっているが、自治会活動については、世帯単位で活動してきたという背景もあり、まだ女性の参画は低い。今後、関係機関との話し合いが必要である。

○委員

- ・ 自治会活動について、参加したからない女性は多い。そして若い男性もあまり参加しようとしなない。しかし、若い男性を育てようとする環境はあるのに、女性にはそのような環境はない。相変わらず、若い男性にばかり期待している。市が自治会に対して「女性を〇〇人必ず登用するように」と指示をするなど、アクションを起こさないと進まないのではないかと。
- ・ 配偶者暴力相談支援センターの設置について、時期未定であるがなるべく早く設置してほしい。
- ・ 高岡市男女平等推進プラン後期事業計画中間報告に対する意見募集結果及び対応（案）の人権尊重（資料1-3頁）について、「人権」を「男女の人権」という表現してほしいという意見について、性同一性障害の市民もいるので、「男女の」と付け加えなくてよかった。考え方として、そのこともあればよかった。

7 会議のまとめ

会長

- ・ これまでの市民委員会や、各部門における議論を通して、おおむね意見がまとめられてきたと感じる。すべての審議を終えて、本答申案を答申に変えて、高岡市長に高岡市男女平等推進プラン後期事業計画及びDV対策基本計画を答申したい。

8 答申

会 長

- ・ 平成 23 年 5 月に、高岡市長から、諮問のあった高岡市男女平等推進プラン後期事業計画及びDV対策基本計画の策定について、高岡市男女平等推進条例に基づき、それぞれ専門部会を設置のうえ慎重に審議の結果取りまとめた。
- ・ 市長におかれては、この市民の皆様、当委員会の思いを十分に理解され、新しい計画を速やかに決定され、高岡市の男女平等・共同参画の推進に邁進していただきたい。

— 大石会長から市長に答申を手交 —

（答申書、高岡市男女平等推進プラン後期事業計画及びDV対策基本計画）

9 市長挨拶

●市 長

- ・ 昨年 5 月の市民委員会において、計画策定についてをお願いをし、それぞれの部会を設けていただく等、熱心にご審議をしていただき感謝申し上げます。
- ・ 本日答申いただいた後期事業計画については、サブタイトルにもなっているように、「NEXT アクション」積極的に施策を推進していきたい。また、DV対策基本計画についても、市民、団体の皆様とともに「暴力を許さない高岡ネットワーク」を充分機能させ、「暴力を許さない社会」を目指したいと考えている。
- ・ 皆様方には、今後引き続き、市の取り組みにご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いしたい。

以 上